

就職状況から感じること

学生支援センター キャリアサポート部門 金子 誠

学生支援センターのキャリアサポート部門は、学生の就業力育成支援を目的に平成23年2月に設置されました。文部科学省の大学設置基準では、就業力を「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力」と、就職後を含んだ広い定義をしており、従来からの就職支援に加えキャリア教育の充実が必要とされています。以下、工学部及び工学研究科の就職状況から感じることを述べながら、キャリア教育との関係について触れたいと思います。

就職内定率は、平成22年度は学部卒・大学院卒共に最終的には98%と良好です（23年度は2月1日現在、学部卒が85%と苦戦していますが、最終的には例年に近い数字になるものと予想しています）。表面的な数字は良いのですが、就職希望でも大学院進学でもないカウント外（単位不足、休学、就職浪人等の留年者含む）の学生が、学部卒で平成22年度最終4.5%、平成23年度2月1日現在7.6%と多く、問題と考えています。まずは実態把握が重要ですが、連絡が取れない学生もいたり苦戦しています。

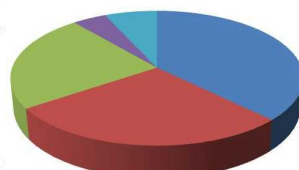
工学部の各学科には、毎年300~400社超の多くの求人があります。本社を関東に置く企業からの求人が46%と多いのに対し（静岡県企業は11%）、学生の出身地は静岡県が39%と多い為か、就職先も学部卒では静岡県が38%と多く（関東は24%）、求人とはアンバランスとなっています。これが大学院卒になると、就職先が静岡県は25%と減ります（関東は32%）。これらのデータは平成23年度卒業者のものですが、ここ10年間、同様の傾向です。視野を拡げて就職先を探してみませんか。結果は違ったものになるかも知れません。

求人企業の地域分布

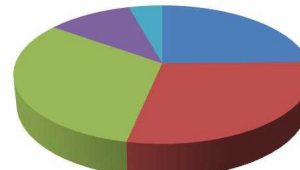


内定企業地域分布

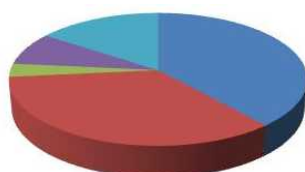
学部卒



大学院卒

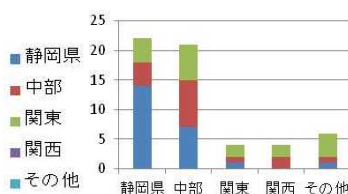


学生の出身地分布

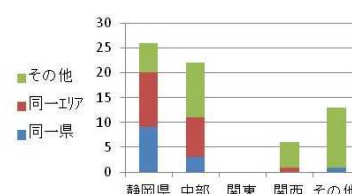


就職先地域性（機械工学科・専攻）

学部卒



大学院卒



平成 22 年度卒の機械工学科・専攻の就職先地域性のグラフ（横軸：出身地、縦軸：就職先地域）からは、同一県への就職が多く、地元志向が伺えます。この傾向は、特に地元の静岡県出身者に顕著ですが、他地域の出身者や大学院卒では、これが薄まります（他学科も同様の傾向）。これはなぜでしょうか？

地元志向には、地元優良企業（製造業）が多いことが関係しているかも知れませんが、地元は慣れていて、知っているので安心、親元で楽、外への恐れ等の内向きな理由はないでしょうか？国内外に多くの拠点を持つ地元企業が多いので、海外勤務の可能性もあり、地元への執着が無意味に思われるのに、なぜなのでしょう？

企業の安定性についても、現在に焦点を合わせるよりも、将来性を考えるべきです。就職は、これからの職業人生の単にスタートラインに立つこととすれば、現在に焦点を合わせるだけで、将来に目が行かないのはいかなるものでしょう。

企業の求める人材像は、変化の激しい時代に対応できる人で、外に・変化に・自ら取組む姿勢（主体性・チャレンジ精神・創造性等）と、チームで仕事できるコミュニケーション能力が重視されます。内向き志向・現在だけに焦点では、求める人材像とは真逆と言わざるを得ません。変化へ対応する力は、基礎としての学力や学ぶ習慣が前提なのは言うまでもありません。経済産業省が提唱している社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）も基本的には同じです。これは就職活動でも鍛えられる部分がありますが、入学時から意識して生活し・鍛えて・習慣化させることが重要です。

求人と就職先、地元志向と企業の求める人材像等の、企業と学生とのミスマッチを防ぐにはどうしたら良いのでしょうか？他地域出身者と大学院卒に、その解の一つがあるかも知れませんが、他地域出身者に地元志向が薄まるのは、親元を離れて自活することで、外向きの意識が鍛えられるからと感じます。学部卒が優良企業への積極的なチャレンジを諦めるケースがあるのに対し、大学院卒では学校推薦を受け易く内定が得られる可能性があるため、良いところがあればチャレンジしているからかも知れませんが、このチャレンジして自分の力を試したいという気持ちは、企業の求める人材像に繋がるため、余計に入り易くなっている様にも感じます。

他の解は、実力を付ける・視野を広げる（横にも縦（未来）にも）・社会人基礎力を身に付けることで、大学生活の過ごし方が鍵となります。単に就職を考えるだけでなく、大学の過ごし方から将来の人生設計まで広い範囲に及ぶキャリア教育が重要視されて来たのは当然の流れで、学生支援センターも工学部の先生方と協力して取り組んで参ります。

5 月からは、就職相談室が工学部 7 号館 1 階（保健センター分室跡）へ移転されますが、それを契機にキャリアサポート資料室に拡充されます。今までは、エントリーシートや面接の相談といった、目前に迫ったことへの短期対応が主でしたが、これからは企業研究やキャリア教育等の中長期的な視点の支援活動も行っています。地の利を活かした気軽に入って来易いレイアウト、掲示やビデオ鑑賞から更にはミニ講習会などを充実させることで、従来の相談者を待つ形から打って出る活動へ変貌させる予定です。どうぞ、どなたでもお気軽にお立ち寄り下さり、ご利用頂きます様お願い申し上げます。